

1ヶ月以上前から管理センター、サービスセンター、迎賓施設が木更津へ転出するという噂がありましたが、2月23日君津製鐵所の赤星部長が来所され、正副会頭に対して次のような説明がありました。

① 近年、世界規模で企業合併、買収がさかんに行われており新日鐵も敵対的買収の標的になるリスクが極めて高い環境になっております。そのような中、今後とも世界トップクラスの製鐵会社として生き残っていくための戦略として、新たな設備投資によって生産量を現在の3500万トンから4000万トン+ α に規模拡大する決定をしております（FAX通信18年8月10日、9月10日参照）。

一方君津製鐵所はここ数年、亜鉛メッキラインや連続鑄造設備など膨大な設備投資を行って参り、これ以上の大型設備投資を行う用地確保が極めて困難な状況であります。

君津製鐵所の主力製品であります薄板関連工場に隣接する管理センター等地区は、一貫工程上極めてスムーズな設備レイアウトが可能な用地でありますので、新たな製品工場用地として位置づけ、管理センター等を君津製鐵所構内東門付近に移転することになったようです。

本年中に着工し、新管理センター等オープンは平成21年早々のようです。これに伴い、400名規模の人が新管理センター等に移る予定です。

② 懸念される君津市の納税については、移転によって君津市への法人市民税が幾分少なくなりますが、新工場建設によって固定資産税が増えるとともに雇用も増えますので、更なる地域の発展につながると思われます。

③ 木更津地域へと管理センター等が移転しても君津製鐵所の名称は変わりません。

④ 会頭としては大変難しいM&Aの時代、特に新日鐵の置かれている位置はすでに「FAX通信会頭からのメッセージ」で会員にも伝えてありますし、説明を受けた計画が、新日鐵の発展のみならず地域の発展につながるということを考えれば、移転には賛成したいと思えます。しかし、隣接する神門、人見、大和田地区に対しては、これ以上ゴーストタウン化しない様に地域の再整備を含めて環境整備に対しては特に思いやりのある配慮を特をお願い申し上げます。また今後も情報（報告、連絡、相談）を商工会議所に引き続き伝えられることを希望すると申し上げておきました。

⑤ 新日鐵が君津市に納めている固定資産税と法人市民税合わせた納税80億円は、神門、人見、大和田地区の先見性と犠牲によって生まれたものでもあります。この地域が君津市で最も健康で豊かににぎわう街であるよう願っております。